

ぼうれんそう

<https://www.amagasaki-library.jp/>

尼崎市立北図書館
尼崎市南武庫之荘3-21-21
TEL (06) 6438-7322
FAX (06) 6438-7344



《新・尼崎の本棚 108》

富松一寸豆

尼崎市北部・富松地区では、古くから土壌が豆栽培に向いていることから、稲作の裏作としてソラマメを栽培していました。この豆は一粒の大きさが一寸(約3センチ)ほどであったことから、富松一寸豆と呼ばれました。皮が柔らかく甘みがあり明治時代には天皇に献上されるなど戦前まで有名な特産品でした。しかし、戦後になると住宅地が増え、都市化が進み栽培が激減します。また、富松一寸豆は、畑の養分を大量に消費することからも栽培の減少につながりました。

一度は栽培が途絶えた富松一寸豆ですが、平成9(1997)年より「富松豆保存研究会」が発足し、この伝統野菜を存続させるための活動が行われています。地元の農家では休耕田を借用し共同栽培研究が進められています。種まき・苗の植え替え・収穫する農業体験は、地元の尼崎北小学校や富松幼稚園の子どもたちが行っています。10月上旬に学校の花壇に約700粒の種を植え、10センチほどの苗になったら、富松町の畑に植えられます。4月頃に白い蝶形の花が咲き、5月中旬に収穫されます。収穫祭では、子どもから大人まで多くの参加者で賑わいます。富松神社では毎年5月に「富松一寸豆まつり」が開催され、豆振舞いが行われるなど、貴重な富松一寸豆を味わうことができます。

(参考:「もっと知りたい中世の富松城と富松」富松城跡を活かすまちづくり委員会/編集発行・「富松一寸豆」の苗植えたよ,毎日新聞 2020-11-18,朝刊,P22)

◆ 節分イベント豆まき

2月3日は節分です。かつて節分とは季節の変わり目を意味していましたが、やがて立春の前日だけを呼ぶようになりました。四季の巡りで春が一年の始まりとなり、立春の前日は大みそかにあたります。古代中国では、大みそかに疫病や邪気を追い払う行事があり、奈良時代に日本にも伝わります。やがて室町時代に豆まきを行うようになり、江戸時代に庶民の間でも行われるようになりました。

なぜ豆を使うのかというと、豆は「魔目(まめ)」で鬼の目を打つ、「魔を滅する=魔滅」で鬼を追いやるという説があります。豆には霊力があると考えられており、一般的には大豆を使いますが、殻付き落花生をまく地域もあります。豆まきの後は自分の年の数だけ豆を食べることで、一年間健康に過ごせると考えられています。食べにくい場合、お茶を注いで福茶にしても、同じようにご利益があるとされています。

(参考:『季節の行事と日本のしきたり』毎日コミュニケーションズ/編集発行)

● 「豆」についてならこんな本●

- 『豆とスープが待つ食卓』丸山久美/著 文化出版局 211713519
- 『豆の歴史』ナタリー・レイチェル・モリス/著 原書房 212216150
- 『まめまきできるかな』すとうあさえ/著 ほるぷ出版 221879209

＜図書館の休館日＞ 印の日はお休みです

2月

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	18
⑬	20	21	22	⑳	24	25
⑳	27	28				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
⑤	6	7	8	9	10	11
⑫	13	14	15	16	17	18
⑬	20	⑳	22	23	24	25
⑳	27	28	29	30	31	



2月:如月(きさらぎ)
「きさらぎ」の由来は、寒さのために、さらに衣(きぬ)を着ること、「着更着(きさらぎ)」「衣更着」から転じたという説。また、時気(じき・寒気)更に来る。「気更来(きさらぎ)」から来たという説もある。
誕生石:アメシスト、クリソベリルキャッツアイ
時候:初午、節分、晩冬、梅のつぼみ

開館時間 午前9時～午後8時(日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

子どもも大人もみんなで楽しむおはなし会

【日時】 2月11日(土・祝) 14:00~15:00

【場所】 3階集会室

【対象】 どなたでも

【定員】 50名程度

【申込】 不要

ボランティアグループ「ひまわりの会」によるストーリーテリング。
寒い冬に、いろりを囲んで昔話を聞くような、子どもから大人まで楽しめる
おはなし会です。当日は直接会場にお越しください！



大人の図書館ツアー



【日時】2月25日(土) ① 10:00~10:45 ② 11:00~11:45 (全2回)

【場所】北図書館 館内

【対象】中学生以上

【定員】先着20名(各回10名)

【申込】2月9日(木)~ 1階カウンター、または電話にて受付

普段は入れない書庫の内部を図書館スタッフのご案内します。
また、セルフ貸出機とシール印刷機の利用方法も説明します。ぜひご参加ください！



<2月展示のご案内>

一般大展示 ふたりの「太郎」

2階展示 キノコの世界



- ◆ 急遽イベントを中止、または延期する場合があります。
- ◆ ご来館の際は感染症対策へのご協力をお願い致します。

大人のための朗読会

【日時】 2月15日(水) 午後2時から1時間ほど

【場所】 3階 集会室

【内容】 『あなたは誰かの大切な人』より
「最後の伝言」 原田 マハ/著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 荻原浩

〔おぎわら・ひろし〕1956年～埼玉県生まれ。『オロロ畑でつかまえて』で小説すばる新人賞、『明日の記憶』で山本周五郎賞、『二千七百の夏と冬』で山田風太郎賞、『海に見える理髪店』で直木賞を受賞。

『冷蔵庫を抱きしめて』

荻原 浩[著]/新潮社

好きな音楽や見たい映画、読もうと思っている本までぴったり合う直子と越朗は結婚し、新生活を始めた。すると、食に関して二人の好みは悉く合わないと分かる。食事作りに奮闘する日々に、直子は摂食障害に悩んでいた中学時代を思い出し……。表題作ほか8編を収録した短編集。

『逢魔が時に会いましょう』

荻原 浩[著]/集英社

民俗学の布目准教授からフィールドワークのアルバイトとして雇われた高橋真矢。さっそく布目と“座敷わらし”の現地調査に向かうが……。河童、天狗など、怪しいものの正体を求めて奔走するコンビの珍道中を描く。『小説すばる』掲載を加筆・修正し、書き下ろしを追加して文庫化。

『極小農園日記』

荻原 浩[著]/毎日新聞出版

採れたてを茹でて、ビールと楽しむソラマメ。壊滅の危機に瀕するカブ、虫との終わらぬ闘い……。極小農園主がおくる庭先での悲喜こもごも、旅の話などを綴った初エッセイ集。連載された「秋冬編」から十年を経て、「春夏編」を書き下ろし、『毎日新聞』連載等をまとめて単行本化。

『ここにいるよざしきわらし』

荻原 浩[文]・いぬんこ[絵]
/朝日新聞出版

“ざしきわらしてなあに?” ゆうちゃんひいばあちゃんが、座敷わらしの話をしてくれた。ひいばあちゃんが子どもの頃、村の大きな家には、たいてい座敷わらしが住んでいたんだって……。座敷わらしを知らない子どもたちに贈る、著者初めての絵本。【0～5歳】

成城大学卒業後、広告制作会社勤務を経て、フリーのコピーライターとして独立する。小説を書きはじめ、1997年『オロロ畑でつかまえて』で小説すばる新人賞を受賞してデビュー。2003年に広告の仕事の減少により、コピーライターを廃業し、専業作家に。著作の『明日の記憶』は2006年に映画化。

児童室

おはなし会



第1・第2・第3 土曜日 場所:3階集会室

おひざ (0~2歳くらい) 午後2:00~
 小さい人 (3~5歳くらい) 午後2:15~
 大きい人 (小学校低学年) 午後2:40~

2/4 (土)
 ● おひざのうえ
 「くつしたくん」
 「あつまれ~」

○ 小さい人
 「おだんごばん」
 「わたしとあそんで」

◎ 大きい人
 「ゆうかなアイリーン」
 「天福地福」

2/11
 子どもも大人も
 みんなで楽しむ
 おはなし会
 14:00~15:00



2/18 (土)

● おひざのうえ
 「はいたっち」
 「はいはいするものよっというで」

○ 小さい人
 「どうぞのいす」
 「おいしいおかゆ」

◎ 大きい人
 「ゆきがふるよねこがいるよ」
 「かえるをのんだととさん」



第1・第3 水曜日
 あかちゃんひろば

場所:1階絵本コーナー
 2/1(水)、2/15(水)
 午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと保護者向け
 赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど



第2・第4 日曜日

場所:1階ロビー
 2歳くらいから
 2/12(日)、2/26(日)
 午前11:00~11:20
 季節の絵本や紙芝居など

2

今月の展示



『ふゆのほん』

日	月	火	水	木	金	土
			1 	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12 	13	14	15 	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26 	27	28				